



新年好



BAN ROM SAI TIMES 「ディー」ディー=タイ語で「いいね!」という意味です。 vol. 19



人と人、手と手、ハートとハート
そこにアートが生まれます。
新しい風、バーンロムサイの+アート。

新しい年の手紙

開設以来19年、さまざまなものがありました。涙も笑いも怒りも悲しみも過ぎ去ってしまえば、なつかしい思い出になってしまいます。バーンロムサイの卒園生たちが、差別や偏見を乗り越えた社会でごく普通に暮らしている今となつては、そのことが何よりも嬉しいです。

世界各地での難民問題、人種差別、公の場での過激な発言・情報過多、人々が不寛容になってきたのでしょうか。また貧富の格差、人口の増加のスピードも恐ろしいほど。76億人の人口を抱えてしまったこの地球、ますます寛容にならなければお先真っ暗です。

Message from MIWA



バーンロムサイ 代表名取美和

Interview バーンロムサイで 働いています!

バーンロムサイのホームで育ち、18歳で卒園、今はホームの外で暮らしながら、バーンロムサイの中で、フルタイムで働いている3人の卒園生にインタビューしました。

(聞き手:谷村尚子 通訳:小西夕子)



ヌン 24歳
(大工 3年)



Dao 19歳
(縫製場 1年)



プロイ 20歳
(ゲストハウス 2.5年)

Q. 大人になったら何をしたいと思っていた?

ヌン 「車の修理工。車やメカが大好き。スピードを出せるからかっこいい。」

Dao 「ケーキ屋さんかカフェをやりたかった。何かを縫ったりデザインしたりしてみたいとも思っていた。」

プロイ 「写真家にあこがれていた。今は携帯で時々、自然を撮ったりしている。」

Q. やっている仕事で、一番得意な作業は?

ヌン 「ペンキ塗りが得意。集中して、注意深く塗る作業が好き。今はまだできない電気系統の仕事は、いつかできるようになりたいがまだ自信がない。」

Dao 「ポーチを作る作業が得意(最初は縫い線をまっすぐにできなかつたが、今ではきれいにできるようになった、と先輩談)。洋服を縫うのは難しい。まだまだ練習しなければ。」

プロイ 「料理ができるようになった。朝食メニューのフレンチトーストが一番得意。ベジタリアン料理は、味付けが難しくて、まだ苦手。」

Q. いつかやってみたいな、と思っていることはある?

ヌン 「車を自分の好きなようにカスタマイズしてみたい。」

Dao 「カフェ。チェンマイでカフェをやりたい。」

プロイ 「ハローキティハウスを作つてそこに住みたい。 Dao のデザインで、ヌンに建ててもらいたい。」

ヒトはアート



hoshihana villageを作った大工さんたち

hoshihana villageの素敵な建物を作つてゐる、まさに縁の下の力持ち。バーンロムサイと一緒に育ててゐる仲間たちです。朝バイクで出勤してくる彼らに会うと、必ずニコニコしながら挨拶してくれる、ひとのいいおじさんたち。

卒園生のヌンも一緒に働いています。皆さんがどんな人たちなのか、ユニークなそのひとりなりを少しのぞいてみました。

(聞き手:谷村尚子 通訳:小西夕子)

①バーンロムサイで働いて何年? ②前世は何だったと思う? ③日本に行つたらどこに行きたい?

チャイ ①17年 ②シロアリ。前世では、家の木を食べまくっていた。生まれ変わって、木で家を作る人になった ③火山口を見てみたい。地獄谷みたいなところ

ケサダ ①2年 ②女性が身に着けるアクセサリー。だから今、女性に好かれれる ③存分に魚釣りができるところに行ってみたい

ポン ①4年 ②鳥。空を飛び、上からいろんな家を見ていた。だから今家を建てる職人になった

(他のメンバーからは、木登りが上手なのでお前はサルだろう!という声が...) ③雪山に登つてみたい

ロン ①17年 ②木。木が好きで木を扱う職人になった ③雪を見てみたい

サック ①1年 ②今、美しいものが好きなのは、前世は、きれいな花だったから ③北海道

ガムトン(トンくん) ①16年 ②鬼。村中の家を壊していく恐怖されていた。だから、大工になり、懺悔しています ③築地。魚市場に行ってみたい

ヌン ①3年 ②木。ロンさんと昔から友達だったから、今世でまた会えて一緒に仕事をしている ③ディズニーランド



バーンロムサイの子どもたちよ!

Message from BANK

私がいつも言つているのは、勉強ができないかもしれないから自分の行動に責任を持つて他の人に迷惑かけること、それが一番大事なことだと思っています。細かいことはもうとたくさんあります。しかし、周りの人には理解され、社会を受け入れられて、どこに行つても友だちができるような子になつてほしい。一つのプロジェクトは小さなことでもれませんが、それを継続する事が大切です。バーンロムサイは、自分でもいろいろなことを考えて仕事をやらせてくれる場所だと思います。これからもバーンロムサイの子どもたちだけではなく、村の子どもたちにどうでも意義のある活動を続けていきたいと思います。



ベン
2009年からバーンロムサイで働きはじめる。ホームの子ども村の子どもが友達になるきっかけ作りとして始めた公共プロジェクトのうち、図書館、スポーツ大会、レスキュー訓練などを担当。

「日本の求める品質が高いので、QCはかなり意識して行っています。
いろいろな判断をケースバイケースで行う必要があるため、
その点とても苦労しているわ」

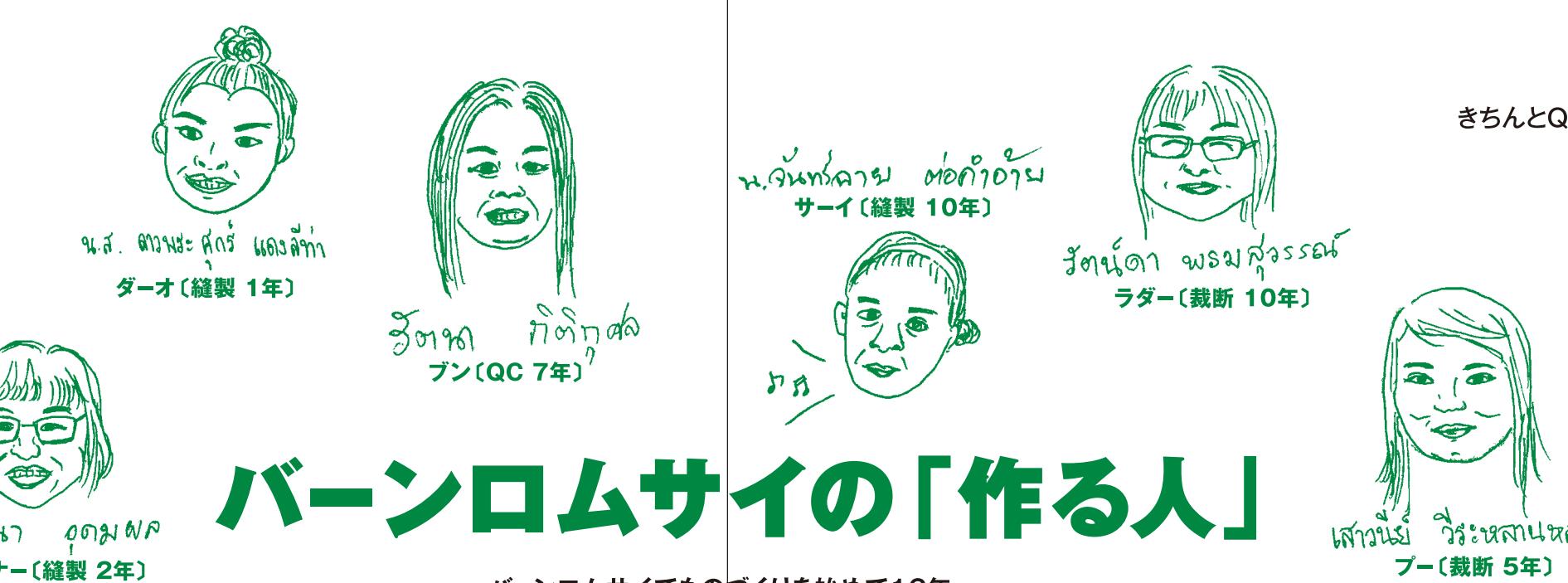
「頭で考えて、縫って、目で確認して…
この繰り返しになる縫製作業は、全身を酷使する大変な作業。
単に縫つて終わりではなく、
責任を持って製品に向き合っているゆえの重労働なのよ」

「毎日真剣に仕事をするけど、
手を動かしながら合間合間にみんなでお喋りするのが
良い気分転換になっているわ」

「社会保険にも入ることができたし、お休みもあるし、
きちんとした制度が整っているから働きがいがあるよね。
メリハリがあるからやる気も出る。
それってとてもありがたいことよ!
お昼ご飯もついているし、不自由はないわ」

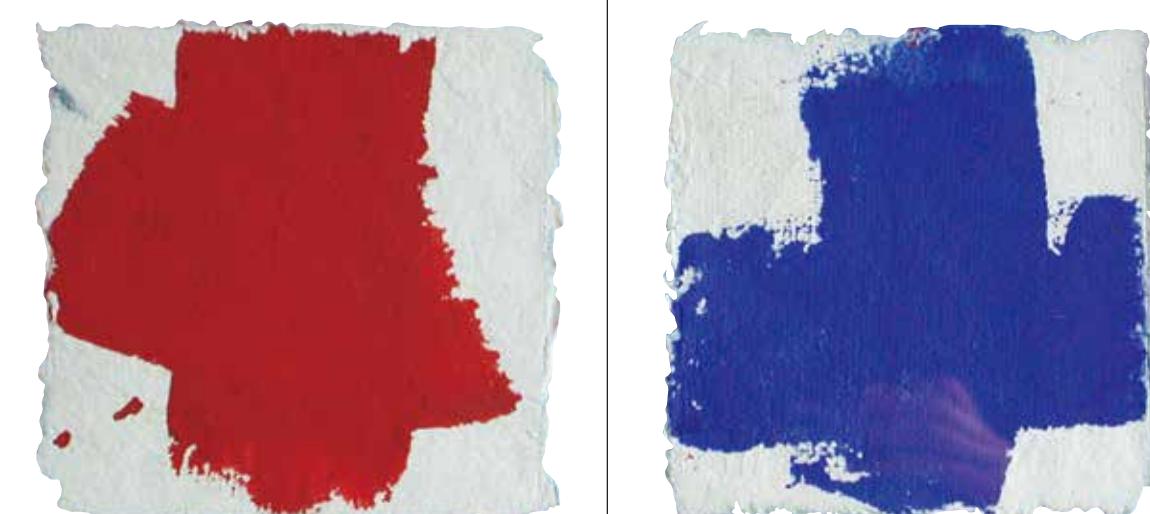


「いろいろなオーダーが重なっている時はとても忙しいけど、
できることがたくさんあってうれしい。
夢中になれるの。自分の作業が早く終わったら、
仲間の作業を手伝うなどして協力できる環境も素敵」



バーンロムサイの「作る人」

バーンロムサイでのづくりを始めて16年。
生地のキズを避け、布目を見てハサミを入れる裁断や、着心地の良さを追求した高い縫製技術、糸の始末まで丁寧な手仕事。
今となってはスタッフが担当するすべての工程が、banromsaiブランドのこだわりであり誇りです。
バーンロムサイのものづくりを支える縫製場スタッフたちに、その思いを聞いてみました。
(聞き手:イラスト:三井田さとみ 通訳:小西タ子)



ヒトは、アート



「他の会社で働くのも良いけれど、
求められる細かさ、正確さはローカル企業や工場とは異なるわね。
私たちが知っている限り、そのレベルはバーンロムサイが一番よ!」

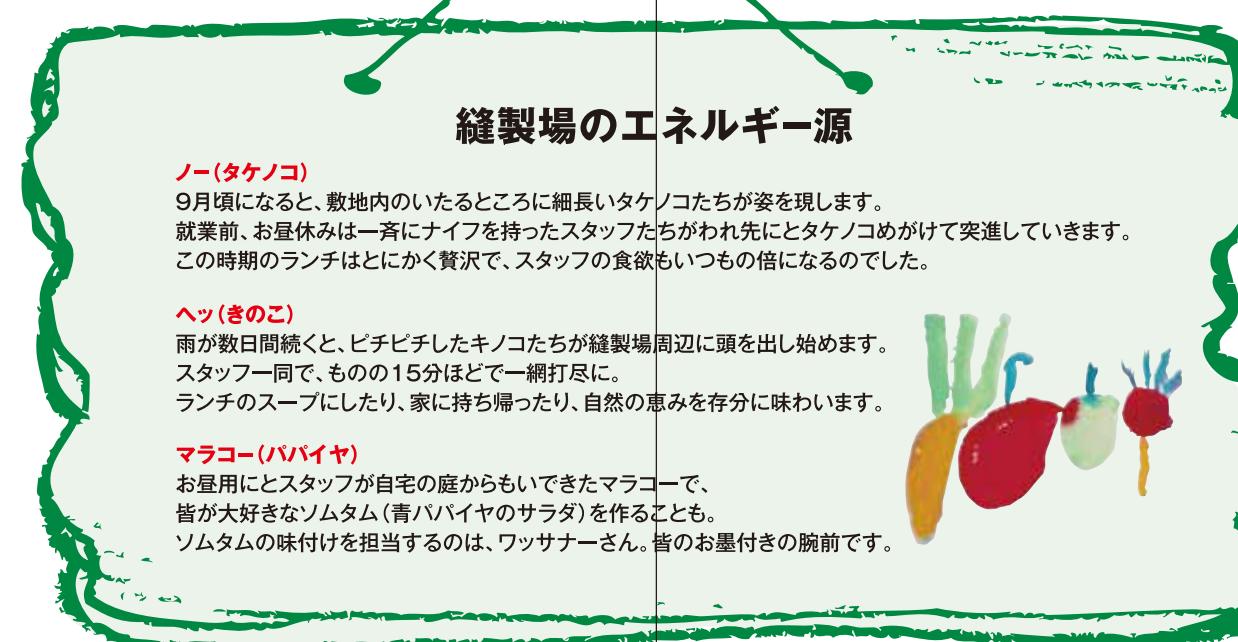
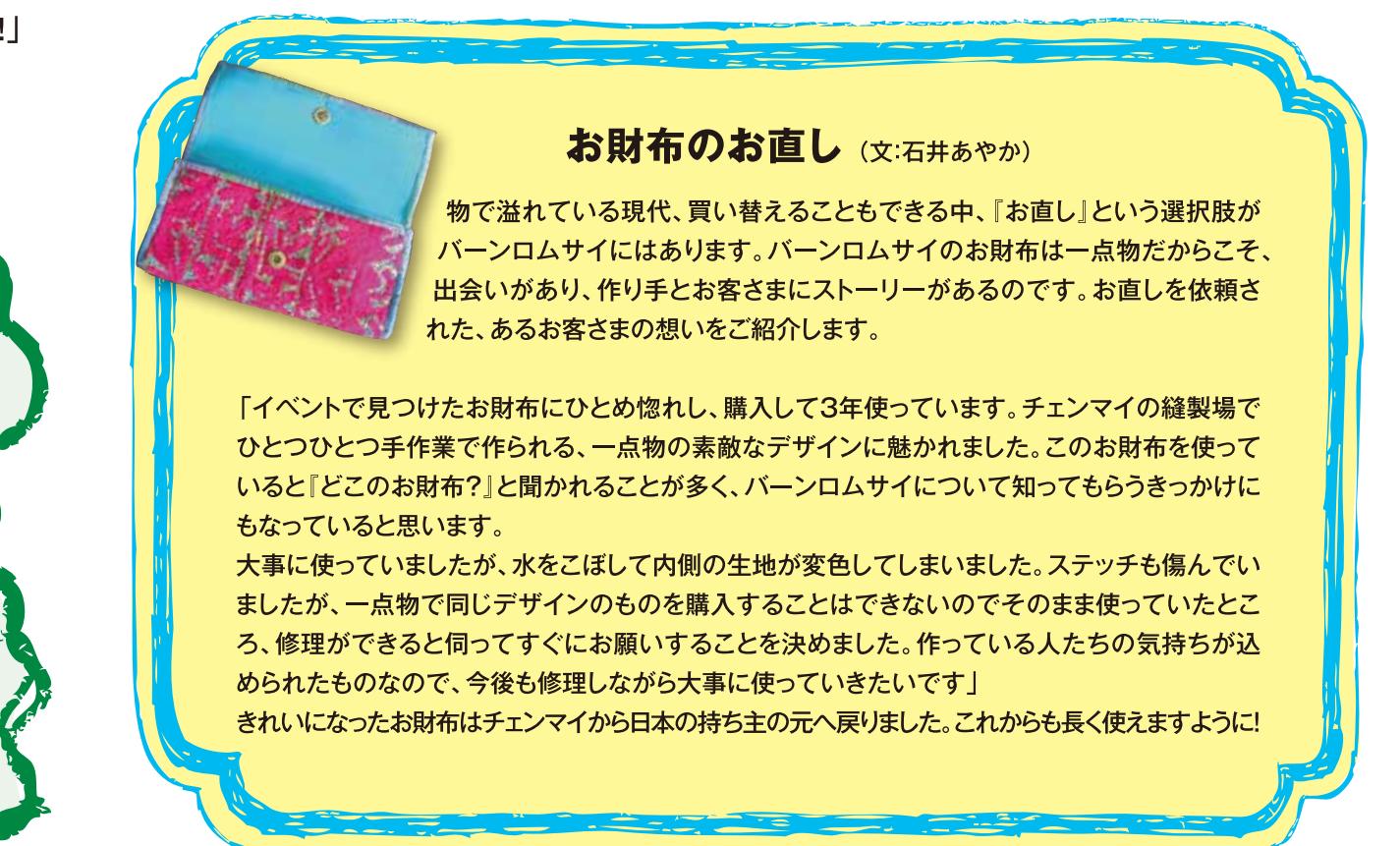




Illustration by Koheisai Kawamura

バーンロムサイは絵本をつくります。

「ホシハナ文庫」創刊記念イベント&販売会のご案内

2018年2月3日[土]~2月12日[月・祝]
銀座・伊東屋 G.Itoya B1 Inspiration Hall

このたびバーンロムサイは、+art(プラスアート)の活動の一環として、国際的に活躍する若手アーティストをチェンマイのhoshihana villageに招へいし、周辺の豊かな自然や施設の子どもたちとの交感から、一冊の絵本をつくってもらう「ホシハナ文庫」プロジェクトをはじめます。

記念すべき第1巻は、影絵師・川村亘平斎さんの『おそなえ きのみ』です。「バーンロムサイ」の名の由来となったガジュマルの樹のまわりで、人と自然の交わり、いのちの不思議が影絵で表現された、素敵な絵本が刷りあがりました。本展では絵本『おそなえ きのみ』の展示販売とともに、川村さんによる影絵の公演もおこないます。ぜひ会場で神秘的な影絵の物語を体験してください。お待ちしております。

パフォーマンス&トーク

「川村亘平斎の影絵と音楽
〈おそなえ きのみ〉」

[日時]

2月3日[土] 14:00~15:30
2月9日[金] 13:30~15:00/18:00~19:30
2月12日[月・祝] 13:30~15:00/16:00~17:30

絵本『おそなえ きのみ』の世界を、著者である川村亘平斎さんが影絵で表現します。上演後にはバーンロムサイジャパン代表の名取美穂と川村さんによるクロス

トークもおこないます。
※全5回の公演は、すべて同じ内容です。予約不要・鑑賞無料ですが、来場多数の場合は入場を制限させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

影絵ワークショップ

「〈おそなえ きのみ〉をつくろう」

[日時]

2月3日[土] 11:00~12:00
2月12日[月・祝] 11:00~12:00

○講師:川村亘平斎、宮本武典(+artプロジェクトキュレーター)○対象年齢:5才~10才※親子でご参加ください。○参加費:1,000円(保険料を含みます)○定員:20名○申込:ご予約はお電話かメールで承ります。メールの場合は件名を「影絵ワークショップ」とし、お名前・人数・年齢・希望日・電話番号を明記の上、以下のアドレスに送信してください。*NPO法人バーンロムサイジャパン(担当:石島)TEL:046-876-6209、Eメール:event@banromsai.jp

会場:銀座・伊東屋G.Itoya B1 Inspiration Hall(〒104-0061 東京都中央区銀座2-7-15)

時間:10:00~20:00(日・祝は19:00まで、最終日は18:00まで)

協力:株式会社伊東屋、kanabou

生きるをつくるものがたり…
誰かのために、何かのために、未来のために!
「+art」が本格的に始まります

今から19年前にHIV感染孤児のホームとしてスタートしたバーンロムサイ、最近ではあまり帰国(…いや、来日?)しない母(名取美和)に代わって話をする機会が増え、今までの19年を振り返るところが多くなりました。この間数多くの縁が重なりさまざまなプロジェクトが生まれ、いつしかアーベーのように繋がり、いろいろ形を変えながらも事業へと発展したことをあらためて感慨深く思います。

それぞれのきっかけはほんの思いつきだつたり、ぼうつとでてきた冗談だつたり…いつもだれかが差し伸べてくれた手を握るたびに新たなものがたりが始まり、今でもそれは続いています。

時の流れと共に次のステップへと繋がれ、また新たな展開が待っている、と思うと責任とともにワクワクした気持ちになります。

チルドレンズホーム、プロダクツ、hoshihana village共々、田タイスタッフみんなで力をあわせ、「誰かのために、何かのために、未来のために」、子ども達や関係するみんながそれぞれの「得意」や「好き」を発見し、発展してゆくバーンロムサイの「+art」。

今年もモノ・コト・キモチの心地良い循環を目指し、皆さまと共に大きな家族バーンロムサイのものがたりを大切に紡いでゆきたいと思います。